

心の中にいつまでも

12月3日は私たち家族にとつて、娘が誕生した日の次に大切な記念の日です。初めて娘を抱っこした日です。4人の看護師さんの力を借りて保育器から出してもらい、ようやく腕にした娘は小さい体の割に、ずっしりと重みがあり驚いたのを覚えています。親子3人の写真も撮りました。

娘は、その18日前、2012年11月15日に予定日より2カ月早く生まれ、NICU（新生児集中治療室）に入っていました。生後1カ月ころまでは順調に見えましたが、感染症にかかっただけで、ほかの症状も重くなっています。

ある日、看護師のKさんが提案しました。

「恵ちゃんが、いつでもママとパパに会えるように、保育器にママとパパの写真を貼りましょう」

迷わず抱っこするときの親子3人の写真を貼りました。実のところ、娘に見えるのだろうかと疑問でした。

「恵ちゃん、写真を見ていますよ」

Kさんの言葉にうれしくなりました。

その年の末、残された2つの治療方法のうちの1つ、交換輸血をしましたが。感染症はなくなりませんでした。感染症はなくなりませんでした。娘は、初めて年賀状をKさんからもらうことができました。

Kさんは、手作りのかわいらしい

〈東京都〉 景山 早恵 かげやま さえ 43歳

カードを何枚も作ってくれました。生後すぐ、お誕生おめでとうのカード、生後1カ月、2カ月のカード、どのカードにも娘の写真が貼ってあり、Kさんたちのメッセージも添えられています。今も私たちの大切な宝物です。

娘は、72日間というあまりにも短かすぎる人生をNICUという小さな空間で過ごしました。でもそこには、Kさんをはじめ、娘にたくさんの愛情を注いでくれる看護師さんがいました。娘を囲んで、Kさんたちと交わした会話やその光景は、今も鮮明に覚えています。娘は、Kさんたちと共にいつまでも、私たちの心の中に生き続けています。